

中国のツーリズムの国際化に伴う構造の変容
—山東省威海市におけるケーススタディー—

○ショウテイ[東海大学大学院文学研究科観光学専攻]・田中伸彦[東海大学観光学部]
キーワード： インバウンドツーリズム・国内観光・中国山東省威海市・韓国

1. 研究の背景

中国人自身の観光は、生活の質の向上によって、年々盛んになっていると言われている。一方で、2013年に中華人民共和国国家旅行局が公開した「2013年中国旅行統計報告」によると、外国から中国に来訪するインバウンド観光客（香港や台湾から中国本土を訪れる観光客を含む）は1.29億人と、前年と比べ2.5%減ったことが報告されている⁽¹⁾。そこで、中国ではインバウンドツーリズムを推進するため、各地方で観光計画に力を入れ始めている。その結果、実際にインバウンド観光の誘致計画がうまく進むところと、予定どおり展開できないところが出てきている。

その様な中で、山東省の最東部に位置する威海市は、インバウンド観光客数を確実に伸ばしている。威海市は、今までも中国国内では観光の街として名が知られていた。地勢としては、威海市は北・南・東の三方向が海に囲まれ、更に東・東南方面は、朝鮮半島と日本列島に海を隔てて向き合っている。威海市には空港も港もあり、国際便が発着している。特に、韓国行きの直行便が多く運行している。

威海市はその地理的優位性によって、近隣である韓国、近年は更にロシアの観光客をインバウンド観光の旅行先として惹き付けている。威海市の政務ホームページ「2013統計年鑑」によると、2012年の威海市へのインバウンド観光客は45.66万人で、そのうち韓国からの観光客数は37.10万人（81.25%）をも占める⁽²⁾。また近年、威海市は、日帰り観光地から、2泊以上ゆったり滞在するツアーを主体にする方向へと観光形態を変容させつつある。加えて、韓国との貿易が進んだため、威海市を訪れる観光客が、本物の韓国の商品を威海市内で手に入れられるイメージが形成されつつある。

つまり、ある地域が深く国際ツーリズムを推進すると、地域のインバウンドツーリズムが促進されると同時に、蓄積された施設や商品、異国文化などが国内旅行を誘発することができるという仮説が立てられる。そこで本論では具体的には威海市を対象とし、「威海市は韓国との交流が深く進むことで、インバウンドツーリズムが増えるとともに、韓国の事物や文化が威海市に浸透したため、国内旅行の誘致にも寄与した」と明らかにする(図-1)。

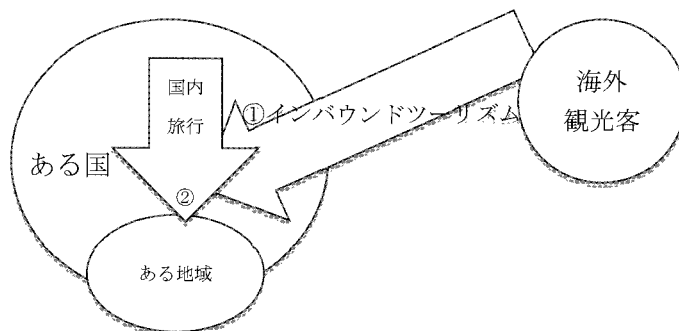


図-1 本研究における仮説の模式図

2. 目的・対象・方法

本論では、まず中国全体の観光状況を把握した上で、次に威海市の現状を整理し、更に威海市に現れている観光事象を既存データ分析やインタビュー調査で把握することで、上述の仮説を検証することを目的とした。

対象は上述のとおり中国山東省威海市とする。威海市は中国の沿岸地方にある。中国の沿岸地方の最東部にあり、中国の中では「三面連海」と呼ばれる。威海市は韓国本土と 90 海里（約 170km）しか離れていない。そのため太古の昔から、威海市と韓国との交流がとても深い地域であった。地理的に近く交通の面で優位である威海市は、韓国との貿易だけではなく、近年は観光業も発展させた。そして、威海市に訪れた国内外の観光客が本物の韓国商品を手に入れられる状況が形成されるようになってきた。この様な事情を持つ威海市は、街の規模としても調査に適正な大きさであると考えられる。この様に韓国の事物や文化が浸透しているイメージが強いことなども、今回威海市を調査対象に取り上げた理由である。

調査の方法としては、既存の統計データなどの分析と、観光に関連する機関（行政、旅行会社）に対するインタビュー調査による実態把握を採用した。

3. 中国における観光の状況

3-1 国内旅行とアウトバウンドツーリズム

中国人の国内旅行の全体像を見ると、近年の中国国内の観光客数は年々増えている傾向が見てとれる。中国旅遊局が出したデータによると、2010 年における中国全国の国内旅行者数は 21.03 億人⁽³⁾であるが、2013 年における統計報告は 32.62 億人にまで増加した⁽⁴⁾。3 年間の中で、おおよそ 10 億人ほど増えたことが分かる。

また、近年中国は国内旅行だけではなく、アウトバウンド観光客数も年々増えている傾向が見いだせる。中国統計局が出したデータから 2010 年から 2014 年までのアウトバウンド観光客数を整理すると、2010 年では 5,738.65 万人⁽⁵⁾であったが、2014 年には 11,659 万人⁽⁶⁾まで増加した。つまり、6,000 万人弱増えたことが分かる。

3-2 インバウンドツーリズム

国内旅行やアウトバウンド観光客数と比べると、中国のインバウンド観光客の人数は近年減る一方である。中国統計局が出した 2010 年から 2014 年のデータを整理すると、2010 年では中国のインバウンド観光客数は 2010 年には 13,376.2 万人⁽⁵⁾であったが、2014 年に入ると 12,849.0 万人⁽⁶⁾まで減少した。

4. 山東省威海市の紹介及び観光の状況

4-1 中国山東省威海市の紹介

山東省威海市は中国の東北に位置し、海岸線の一番東にある海浜街である。そのため中国国内では、かつてより有名な海浜リゾート地であった。繰り返しになるが、威海市の地理的位置はとても特殊で、山東省の一番東であるとともに、「三面臨海」の地理的位置となっている。そのため、威海市で一番有名な海という観光資源を活かしてビーチリゾートとなった訳である。

4-2 威海市の観光の状況

4-2-1 威海市における国内旅行の現状

威海市の旅遊局が出した「国内旅行者数報告書」を整理すると、2010年は2,112.0万人⁽²⁾、2012年は2,669.1万人⁽⁸⁾の観光客が威海市を訪れている。つまり、2年間の中で500万人ほど観光客が増えたことになる。

4-2-2 威海市におけるインバウンドツーリズムの現状

威海市の旅遊局が出した2010年と2012年の「インバウンド観光客数報告書」を整理すると、2010年は37.26万人⁽²⁾、2012年は45.66万人⁽⁸⁾の観光客が威海市を訪れている。すなわち、中国の全体的なインバウンド観光客数が減っている中、威海市においては逆にインバウンド観光客数が増えていることが明らかになった。

5. 威海市と韓国との関係

観光に関連する機関（行政、旅行会社）に対するインタビュー調査などの結果を要約すると、1984年、威海市の港を海外に開放し始めた。地理的に近い韓国と、初めて威海市が通行協定を結んだのは1988年であり、初めての本格的な物資運輸は1990年に行われた。その後、韓国と威海市との貿易はとてつとめ緊密になり、今では、街中のあちこちに韓国料理屋や韓国土産専門のデパート、韓国製洋服屋などが並んでいる。さらに、2015年6月2日に閲覧した威海政務ホームページでは、威海市が「中韓自由貿易協定」の中韓自由貿易区地方経済模範区に指定されたことが発表された⁽⁹⁾。これにより、威海市と韓国との貿易はさらに深くなった。

そして威海市と韓国との貿易が盛んになるに連れ、商用・余暇の両面から大量の韓国観光客が威海市を訪れるようになった。先にも述べたが、威海市の2012年のインバウンド観光客は45.66万人であるが、そのうち韓国からの観光客数は37.1万人であった。つまり、今では韓国からの観光客は、威海市のインバウンド観光客数の81.25%をも占めている。韓国は威海市の一番のインバウンドツーリズム客源国なのである。

そして、威海市としては、より多くの韓国人観光客に訪れてもらうために、インフラ整備をするなど、観光しやすい街を整備していった。そのうちに、街中には特産な風景ができ、街中にある韓国系商店が威海市の中に溶け込んでいった。結果として、威海市はだんだん本物の韓国商品が手にいられる場所で、韓国の雰囲気味わえるというイメージを、中国国民に植え付けるようになった。そして、たくさんの中国国内の観光客の目を引き留めるようになった。

さらに、2013年からは、威海市政府が「威韓連線」のツアールートを進め始めた。「威韓連線」商品とは、威海市以外のところで発売している観光ツアーであり、「2+5」や「3+4」（「威海市2日+韓国5日」や「威海市3日+韓国4日」）などの形で人気ツアールートとして売られている。威海市の政務ホームページが出しているデータを整理すると、「威韓連線」商品は、2013年の中で韓国人観光客半年間（政府が「威韓連線」を進め開始以来）18.4万人を誘致し、2012年同期と比べ、2.3%の伸び率を示している⁽¹⁰⁾。

6. 結論と課題

前文で記述した通り、威海市と韓国との交流はとてつとめ深く、貿易もかなり浸透した中で、インバウンドツーリズムがより進むようになった。そして、韓国とのインバウンドツーリズム

が威海市の中で浸透し、貿易により深く交流することによって、威海市自身が変化し、街中にたくさんの韓国の要素が融合することになった。韓国の要素はもういつの間にかすでに威海市の一部になり、不可欠な観光資源になっていった。

韓国の要素を融合した威海市には、たくさんの韓国土産専門店や韓国料理屋、韓国製洋服屋があるので、本場の韓国商品が手にいれられるイメージが強くなり、中国国内の観光客を引き寄せることになった。結果として現在では、中国全体の傾向に反して韓国からの外客を中心としたインバウンドツーリズムと国内旅行がともに増えている。

この様に、ある国との結びつきが強くなることにより、ある都市の中にその年の要素が浸透し、新たな観光を呼び起こすという現象が今回の調査によって確認できた。

しかし、韓国からのインバウンドツーリズムが国内観光に直接に誘発していることを確実に証明するには、さらなる文献調査やデータ解析等の資料検証を必要とすることが今後の課題といえる。

引用文献

- (1) 中華人民共和国国家旅行局ホームページ - 「2013 年中国旅行統計報告」
http://www.cnta.gov.cn/zwgk/lys/j/201506/t20150610_18910.shtml
- (2) 山東省威海市政務ホームページ - 「2013 統計年鑑」
http://zfxgk.weihai.gov.cn/xxgk/jcms_files/jcms1/web29/site/attach/0/1501071521159227745.pdf
- (3) 中華人民共和国国家旅行局ホームページ - 「2010 年中国旅行統計報告」
http://www.cnta.gov.cn/zwgk/lys/j/201506/t20150610_18888.shtml
- (4) 中華人民共和国国家旅行局ホームページ - 「2013 年中国旅行統計報告」
http://www.cnta.gov.cn/zwgk/lys/j/201506/t20150610_18910.shtml
- (5) 中華人民共和国国家統計局ホームページ - 「2010 年中国旅行業統計公報」
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>
- (6) 中華人民共和国国家統計局ホームページ - 「2014 年中国旅行業統計公報」
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>
- (7) 山東省威海市政務ホームページ - 「2013 統計年鑑」
http://zfxgk.weihai.gov.cn/xxgk/jcms_files/jcms1/web29/site/attach/0/1501071521159227745.pdf
- (8) 山東省威海市旅遊局ホームページ - 「2012 インバウンドツーリズム者数報告書」
http://zfxgk.weihai.gov.cn/xxgk/jcms_files/jcms1/web30/site/art/2013/3/1/art_1330_53635.html
- (9) 威海政務ホームページ - 「威海市は中韓自貿区地方経済提携模範区になった」
http://www.whta.gov.cn/whtagov/2015-06/5033_02.html
- (10) 威海政務ホームページ - 「威韓連線」が我が市の旅遊市場の昇温を促進している
http://zfxgk.weihai.gov.cn/xxgk/jcms_files/jcms1/web30/site/art/2013/7/12/art_1330_52314.html